

令和8年度 第1回

丹波篠山市視聴覚ライブラリー運営委員会

日 時：令和8年6月23日（火）10時30分～

場 所：丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

1 開 会

2 委嘱状交付

3 あいさつ

4 令和7年度の事業実績について …P1

5 令和8年度の進捗状況について …P7

6 その他

7 閉 会

報告事項

令和 7 年度の事業実績について

1 視聴覚ライブラリー事業

視聴覚機器の特性を活かした市民の生涯学習の支援・研究を行うとともに、地域の映像記録の制作を支援し、社会教育・学校教育の充実を図った。

【予算現額（当初予算）】 1,012 千円（1,003 千円） 【決算】 929,583 円

運営委員報酬、修繕費（業務用三脚オーバーホール等）

著作権フリー音源使用料、備品購入費（無停電電源装置）等

(1) 視聴覚ライブラリー運営委員会の開催

※丹波篠山市視聴覚ライブラリー条例第 5 条及び第 6 条に基づく

○第 1 回 : 6 月 18 日（水）

協議内容: 令和 6 年度事業実績、令和 7 年度事業計画進捗等

○第 2 回 : 10 月 10 日（金）

協議内容: 令和 7 年度事業実施状況、令和 8 年度事業計画と予算要求等

(2) 編集室での映像編集、メディア複製、音声録音の支援

映像編集、メディア複製・変換、録音などが行える編集室を無料で開放し、市民の記録映像をはじめ、教材作成や広報用映像・音声の制作等の支援・指導を行った。

【施設・貸出機器】

編集用パソコン 6 台、BGM（著作権フリー音楽）、メディア複製機器（DVD、BD）等

○R7 利用件数 282 件 月平均 24 件 (R6 327 件 R5 408 件)

○新規利用者数 28 人 (R6 34 人 R5 49 人) 【詳細は資料 P1, 2, 3】

(3) 視聴覚機器の貸出と活用支援

ビデオカメラ、プロジェクター、スクリーン、ブルーレイプレーヤーなどの機器を無料で市民及び団体に貸し出すとともに、操作方法などの助言を行った。

【貸出機器】

ビデオカメラ 3 台、プロジェクター 4 台、スクリーン 6 台、ブルーレイプレーヤー 2 台 ほか

○R7 貸出件数 368 件 月平均 31 件 (R6 400 件 R5 391 件)

○新規利用者数 32 人 (R6 49 人 R5 46 人) 【詳細は資料 P1, 2, 4】

(4) 映像記録及び映像制作

市役所内各部署から依頼があった映像制作・支援を行った。

【詳細は資料 P6】

【事業の効果】

令和 6 年度よりも編集室の利用件数が 45 件の減少、貸出機材の利用件数は 32 件の減少となった。しかしながら、編集室や機器を無料で利用できる環境は個人では整備が難しく、継続して映像制作・複製・記録保存の機会を提供しており、市民の学びや生きがいがづくり、地域活動の発信支援につながっている。

市役所内部の制作依頼は「国際博関連動画」や「ユネスコ国際会議」・「自伐型林業体験レポート」のほか、市内 3 高等学校の学校紹介映像等、合計 15 件の制作および、支援を行った。これにより、市政情報や教育・地域活動を分かりやすく伝えるとともに、行政内部における映像活用の推進にも寄与した。

2 地域映像配信事業

蓄積してきた映像をインターネット配信している「丹波篠山動画データベース」へのデータ追加を行った。また、ささやまビデオサークル「レインボー」や地元高校生の協力のもと、地域映像ニュースや「丹波篠山まるいの TV」の制作・配信に取り組んだ。

【予算現額（当初予算）】 297 千円（297 千円） 【決算】 222,650 円

まるいの TV 司会謝礼、ビデオ収録協力謝金

(1) 丹波篠山動画データベース の蓄積・制作・配信

①地域映像ニュースを制作し、配信する映像情報の充実を図った。

- ・ 4/ 1 国際博オープニングセレモニー
- ・ 4/12 春日能
- ・ 10/ 5 中央図書館 300 万人達成セレモニー
- ・ 11/30 落ちない山の芋 等

合計制作本数：6 本（R6 18 本 R5 13 本）

【詳細は資料 P7】

②動画データベースの利用促進及び周知のため、広報紙・図書館だよりへの映像紹介や「毎月 10 日は図書館の日」における視聴覚ホールでの上映などを行った。

③丹波篠山動画データベースの周知については、学校教職員研修時（教育情報化リーダー研修、初任者研修）を実施。高齢者大学（あおやま学園）においてはアーカイブ映像等を放映した。

(2) 丹波篠山まるいの TV の制作・配信

①市内の地域情報やまちづくりの取組などを「丹波篠山まるいの TV」番組で収録し、2 カ月に 1 度、最終金曜日にインターネットで配信した。

②収録にあたっては、ビデオサークル「レインボー」や篠山鳳鳴高校放送部等の協力を得て実施した。

○配信回数 6 回 視聴数計：2,609 回 ○月平均 435 回

○チャンネル登録者数 595 人 (39 人増)

【詳細は資料 P8】

③聴覚障がいのある方や、施設内での無音放映への対応として、テロップ入り映像の制作を行った。

④YouTube 以外でも視聴できるよう、市内の宿泊施設、医療施設、高齢者施設等に DVD を配布して施設内での上映を依頼している。

○配布箇所：17 施設（市役所市民ホール、丹南支所、医療施設他）

(3) 市民動画づくりワークショップの開催

8 月 31 日と 9 月 7 日、及び 10 月 5 日の 3 回、映像祭実行委員の岩田瑞希さんを講師に迎え、「Enjoy 丹波篠山 ♪ ショートムービーアワード」参加に向けたスマートフォンで映像編集を行うワークショップを開催した。

8/31 は 7 名、9/7 は 6 名、10/5 は 9 名の参加があった。

○撮影ワークショップ（初級）：市民センター周辺（8/31）、中央図書館周辺（9/7）

○編集ワークショップ（中級）：丹波篠山市民センター（10/5）

(4) 丹波篠山の伝統行事や祭礼の映像記録制作

○5/17～ 最古の登り窯 修復の記録（窯詰め・窯出し）

○6/29 当野 ちまきのお当

○12/27 川原 山神神社 山の等 など

(5) 「画像付き音声動画」YouTube 配信

朗読ボランティアグループが朗読した「市広報丹波篠山」（配信回数 12 回）や「議会だより」（配信回数 4 回）の紙面画像付き音声動画を制作・配信した。

【事業の効果】

「市民動画づくりワークショップ」を開催したことで、地域の魅力を表現する機会を得ることができ、映像制作初心者が丹波篠山映像祭へ作品を応募することにもつながった。

また、「つなぐ」を各回の特集テーマ（丹波焼が国際的な賞を受賞、林業、丹波篠山の原料を使用した紙漉き等）とした「丹波篠山まるいの TV」を製作・配信するとともに、地域映像ニュースの制作として、当野の「ちまきのお当」や、川原の「山神神社 山の等」など、貴重な伝統行事や祭礼を記録することで、地域の記憶を将来へ継承する映像アーカイブの充実を図った。

3 情報化推進事業

パソコン操作に関する市民の相談窓口として「ICT ふれあいサロン」を運営し、市民の「ICT 力」向上のための支援を行った。

【予算現額（当初予算）】321 千円（420 千円） 【決算】295,204 円

スタッフ協力者謝礼、燃料費、ボランティア保険

(1) ICT ふれあいサロンの運営

情報通信に関する市民の相談窓口として「ICT ふれあいサロン」を運営し、市民ボランティアスタッフによるパソコン初心者への操作支援を行った。

（Windows のサポートが 10 月 14 日で終了したため、インターネットの利用を制限した）

○R7 利用人数 延べ 713 人 月平均 59 人 （R6：976 人 R5：1,040 人）

※新規利用者数 36 人（R6：25 人、R5：51 人） 【詳細は資料 P 1, 5】

【事業の効果】

ICT ふれあいサロンのサポートスタッフは、前年度に引き続き 11 人（男 9、女 2）体制で運営を開始し、12 月に 1 名引退されたため、10 人（男 8、女 2）体制となったが、パソコンに不安を持つ市民の相談に応じ、学習機会の確保とデジタル活用の支援を行った。

利用延べ人数は 713 人と前年度より 263 人減少し、その内 415 人（58.2%）が「サポート必要」での利用。「サポート必要」で利用された方で、目的を達成された方は 370 人（90.7%）と目的を達成されている方が多い。

実利用者 125 人の年齢別詳細は、10 代 1 人（1%）、20 代 1 人（1%）、30 代 4 人（3%）、40 代 15 人（12%）、50 代 12 人（10%）、60 代 17 人（14%）、70 代 43 人（34%）、80 代 31 人（25%）、90 代 1 人（1%）となっており、60 歳以上が 74%を占め、高齢者の学びの意欲が高い結果となっている。

4 丹波篠山映像祭事業

丹波篠山映像祭を、令和8年2月に開催した。

映像コンテスト「第37回丹波篠山映像大賞」では、テーマを「生きる」から「いまを未来へつなぐ」に変更して、映像を募集し公開審査を行った。

また、実行委員会への委託業務である「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」では、丹波篠山の魅力が伝わる動画、丹波篠山で感じた素晴らしい瞬間や楽しい体験を1分以内の映像にした動画を募集し、丹波篠山の魅力を発信した。

【予算現額（当初予算）】1,365 千円（1,470 千円 ※うち 470 千円は地域振興基金繰入金） 【決算】1,199,119 円

映像大賞賞金・副賞代、審査委員・司会者謝礼、映像祭実行委員会への事業委託料

(1) 「西垣監督とめぐるロケ地で丹波篠山を撮る！」の実施

河合雅雄氏の著書を原作に映画化された「森の学校」を製作された、西垣吉春監督（ふるさと大使）とともにバスで映画のロケ地をめぐる撮影ツアーを実施。丹波篠山の良さを知ってもらうとともに、映像に残して作品に仕上げてもらおうと、丹波篠山観光協会の方にもご協力いただき、市内4か所をめぐり各々が撮影を行った。全国から19名が参加。撮影した映像は、「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」に応募した。

○開催日：令和7年9月21日（日）

○ロケ地：波々伯部神社、曾地の桜の木、篠山城跡、河原町

(2) 丹波篠山映像祭の開催

○開催日：令和8年2月15日（日）

○会 場：四季の森生涯学習センター多目的ホール

○内 容：・第37回丹波篠山映像大賞（ファイナリスト6作品上映、講評、最終審査）

・「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」

（優秀賞、丹波篠山国際博賞等発表）

・映像大賞結果発表・授賞式

【来場者数】434人

① 第37回丹波篠山映像大賞

○作品テーマ 「いまを未来へつなぐ」

○応募本数 37本（前年比26本減、市内から2名の応募あり）

○上位4作品

【映像大賞】：「命を届ける場所」（吉田理乃 東京都文京区）

【兵庫県知事賞】：「架け橋」（尼崎西高等学校放送部 兵庫県尼崎市）

【丹波篠山市議会議長賞】：「渡」（藤島高等学校放送部 福井県福井市）

【丹波篠山市教育長賞】：「私たちの部活事情」

（須磨東高等学校放送部 兵庫県神戸市）

○賞金・副賞 ・映像大賞 10万円 丹波焼オブジェ

・兵庫県知事賞 5万円 丹波篠山特産品（丹波篠山牛）

・丹波篠山議会議長賞 2万円 丹波篠山特産品（黒豆・山の芋）

・丹波篠山市教育長賞 2万円 丹波篠山特産品（ぼたん鍋）

② 「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」（実行委員会へ委託）

「私が見つけた丹波篠山！」をテーマに、1分以内の映像を募集した。3本の優秀賞のほか、会場において投票数が最も多い作品も選出。4月から開催中の丹波篠山国際博にちなんで「丹波篠山国際博賞」や「ふるさと大使賞」を設け表彰した。また、今回もお楽しみ抽選会を実施した。

○応募本数 35本（市内13本、市外22本）

【優秀賞】・篠山のイノシシ巡り（inamao 丹波篠山市）

・楽しい篠山（あーちゃん 丹波篠山市）

・私の大好きな駄菓子屋さん（りん 丹波篠山市）

【丹波篠山国際博賞】

- ・階段を登る神輿 2025 リベンジ（クリスチーネ長澤 丹波篠山市）

【ふるさと大使賞】

- ・丹波篠山市あるある（ほっちゃん 丹波篠山市）

【会場セレクト賞】

- ・篠山のイノシシ巡り（inamao 丹波篠山市）

【詳細は資料 P9】

③各種イベントの実施

多くの市民の皆さまに映像に関連したイベントに触れていただくために、「サイレント映画&ピアノ伴奏」を午前中にホールにて実施したり、ふるさと大使である三原萌さんによるフルート演奏、VR 体験や丹波焼ガラメン体験、篠山産業高校生によるワークショップ、トリックアートや視聴覚ライブラリーのアーカイブ映像の上映などを実施したりした。いずみ会の皆さんによるしし汁の販売や、キッチンカーの出店なども実施した。

【事業の効果】

「丹波篠山映像大賞」では、全国から 34 人のアマチュア映像作者から 37 本の応募があった。作品の公開審査や顕彰を行い、今回から変更となった「いまを未来につなぐ」というテーマの映像作品から、来場者の心の豊かさを育むなど市民の生きがいに寄与することができた。

「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」では、視聴覚ライブラリー事業で実施した「映像づくりワークショップ」受講生やロケ地撮影ツアー受講生からの応募があり、映像制作への興味を促せたことや、テーマを「私が見つけた丹波篠山!」としたことで、丹波篠山を描いた作品が集まり、来場者の関心を高めることができた。

当日、四季の森会館東館では、高校生や各種団体による協力のもとイベントを実施。しし汁の販売やキッチンカーの出店なども行い、交流と賑わいを生み出していた。

映像を核とした文化事業として、市内外の参加者が丹波篠山の魅力に触れる機会を作ることができた。

報告事項

令和 8 年度の進捗状況について

1 視聴覚ライブラリー事業

視聴覚機器の特性を生かした市民の生涯学習の支援・研究を行うとともに、地域の映像記録の制作を支援し、社会教育・学校教育の充実を図る。

【予算（昨年度予算）】937 千円（1,003 千円 前年度比 66 千円減）

運営委員報酬、消耗品費、修繕費（業務用機材等修理、公用車車検）

著作権フリー音源使用料等

(1) 視聴覚ライブラリー運営委員会の開催 継続

※丹波篠山市視聴覚ライブラリー条例第 5 条及び第 6 条に基づく。

開 催：第 1 回（6 月）、第 2 回（10 月）

協議内容：事業実績、事業計画等について

委員任期：R7.4～R9.3

(2) 編集室の無料開放と撮影・編集、音声の録音やメディア複製の支援 継続

映像編集、メディア複製・変換、録音などが行える編集室を無料で開放し、市民の記録映像をはじめ、映像・音声等の制作等の支援・指導を行う。

【施設・貸出機器】

編集用パソコン 6 台、メディア複製機器、著作権フリー音楽等

(3) 視聴覚機器の貸し出しと活用支援 継続

ビデオカメラ、プロジェクター、スクリーン、ブルーレイプレーヤーなどの機器を無料で貸し出すとともに、操作方法や活用方法の助言を行う。

【貸出機器】

ビデオカメラ 3 台（HD2 台、4K1 台）、プロジェクター 4 台、スクリーン 5 台

ブルーレイディスクプレーヤー 2 台 ほか

(4) 映像記録及び映像制作 継続

市役所内各部署から依頼があった映像制作・支援及び視聴覚ライブラリーとしてのドキュメンタリーなどの映像制作を行う。

2 地域映像配信事業

蓄積してきた映像情報をインターネット配信する。ビデオサークル「レインボー」や地元高校生の協力のもと、「地域ニュース」や「丹波篠山まるいの TV」制作に取り組む。

【予算（昨年度予算）】 1,948 千円（297 千円 前年度比 1,651 千円増）

映像づくりチャレンジ講座講師謝金、まるいの TV 司会謝礼、ビデオ収録協力者謝金
備品購入費（業務用ビデオカメラ・編集用 PC 1,715 千円）

(1) 丹波篠山動画データベースの蓄積・制作・配信 継続

- ①地域映像ニュースを随時制作し、配信する映像情報の充実を図る。
- ②撮影案件に職員が対応できない場合や、職員数以上の撮影人員が必要な場合などにおいて、映像撮影・編集を市内事業者に委託もしくはビデオサークルに協力を仰ぐ。
- ③丹波篠山動画データベースの更なる周知を図るために、広報紙への映像紹介・図書館だよりへの掲載や「ぶら〜っとサンデー」における視聴覚ホールでの上映等を行う。
- ④丹波篠山動画データベースページについて、目的の動画をより簡単に見つけられ、かつ安全なデータベースとなるよう更新を行う。

(2) 丹波篠山まるいの TV の制作・配信 継続

- ①市内の地域情報やまちづくりの取組などを「丹波篠山まるいの TV」として制作し、YouTube で配信する。基本的に奇数月の最終金曜日に配信をする。
- ②収録は、ビデオサークルや篠山鳳鳴高校放送部等の協力を得て実施する。
- ③YouTube 以外でも視聴できるよう、市内の宿泊施設、医療施設、高齢者施設等に DVD を配布する。また、字幕入りで制作し、配信・配布する。
配布箇所（市施設 2、宿泊施設 1、医療施設 7、特老・老健 7 合計 17）

(3) スマホで始める地域映像づくりチャレンジ講座の開催 新規

地域の人や風景、行事などを題材に、身近なツールであるスマートフォンで撮影して、まとめて、伝える力を実践的に学ぶ講座で、初心者でも参加しやすい内容とし、題材の見つけ方から、撮影や編集のコツ・基本を全 4 回で実践的に学び、地域映像を自分で完成させることを目指す。地域の魅力を見つけ、自分の視点で発信する面白さを体験できる機会とし、市民の映像制作の裾野を広げる。

(4) 丹波篠山の伝統行事や祭礼の映像記録制作 継続

4K カメラで地域の伝統行事や祭礼を随時撮影し、将来的に縮小・廃止される可能性があるものから優先的に記録していく。

(5) 「画像付き音声動画」YouTube 配信 **継続**

朗読ボランティアが朗読した「市広報丹波篠山」や「議会だより」の画像付き音声動画を制作・配信する。

(6) 新規機材への更新 **新規**

導入後 20 年近く経過する業務用ビデオカメラ 1 台及び 4K 対応の編集用 PC を新規更新することで、安心して撮影を行うことができるとともに、スムーズな映像編集が可能となる。

3 情報化推進事業

パソコン操作に関する市民の相談窓口として「ICT ふれあいサロン」を運営し、市民の「ICT 力」向上のための支援を行う。

【予算（昨年度予算）】445 千円（420 千円 前年度比 25 千円増）

スタッフ協力者謝礼、燃料費、ボランティア保険

(1) ICT ふれあいサロンの運営 **縮小**

- ①パソコンの基本的操作に関する市民の相談窓口として「ICT ふれあいサロン」を運営し、市民ボランティアスタッフによるパソコン初心者への操作支援を行う。
- ②ICT ふれあいサロンの機器の老朽化及び利用者の減少により週 3 回（水・金・日）の運営としている。

4 丹波篠山映像祭事業

昨年度から「いまを未来へつなぐ」というテーマに変更し、丹波篠山から全国に向けて発信することを目的に、全国アマチュア映像コンテスト「第 38 回丹波篠山映像大賞」を開催する。

また、丹波篠山映像祭実行委員会に事業委託し、令和 8 年度丹波篠山映像祭において「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」を実施する。

【予算（昨年度予算）】1,182 千円（1,470 千円、288 千円の減）

記念品、協力者謝金、賞金、消耗品、食糧費、印刷製本費、郵便料等

丹波篠山映像祭実行委員会への事業委託料（470 千円）

(1) 第 38 回丹波篠山映像大賞の運営 **継続・新規**

全国のアマチュア作者から、「いまを未来へつなぐ」をテーマにした 7 分以内の映像作品を募集し、丹波篠山映像祭に実施する最終審査会において、事前審査を通過したファイナリスト 6 作品の公開審査を行い顕彰する。主催は丹波篠山市教育委員会、丹波篠山市とし、事業運営は視聴覚ライブラリーが行う。

また、今年度は、「高校生特別審査員」を設け、若い世代の視点や感性を映像大賞に取り入れることで審査の幅を広げるとともに、高校生にとって映像表現や地域文化への理解を深め、次代を担う世代が主体的に関わる機会を提供する。

- ① 募集期間： 令和 8 年 8 月 1 日～令和 8 年 11 月 30 日（必着）
- ② 審査委員： 西垣吉春、山本剛大（NHK 神戸）、久保仁（サン TV）（予定）
高校生 3 名（市内 3 高校より各 1 名）
- ③ 最終審査会： 令和 9 年 2 月 7 日開催の丹波篠山映像祭で実施する
- ④ 賞： 映像大賞、兵庫県知事賞、市議会議長賞、市教育長賞各 1 作品
ファイナリスト賞 2 作品、特別賞（高校生選出） 1 作品

(2) 令和 8 年度丹波篠山映像祭の開催 **継続**

丹波篠山映像祭は、「丹波篠山映像大賞」及び「Enjoy 丹波篠山 ♪ショートムービーアワード」を実施することにより、素晴らしい作品との出会いや、作品制作における発見、達成感、充実感など、映像を通じた豊かな暮らし、豊かな人づくりを目的に開催するとともに、映像に関心を持ち、自ら丹波篠山の魅力を発信するクリエイター誕生のための布石とする。

また、市内各種業者等にスポンサーを依頼し、協力いただける皆さんと共にイベント等を開催するなど横のつながりを作ることで、来場者増加に向けて取り組み、あわせて、映像祭の開催告知を精力的に行い、広く周知を図っていくとともに、以下の内容も取組に含め計画を進めていく。

- ・ライブラリー所蔵の昔懐かし映像等の上映
- ・VR 体験等イベントの実施
- ・篠山産業高校生徒製作による来場記念品配布（会場にて受付時に配布）
- ・審査員の増員（高校生）
- ・各種体験イベント（ワークショップ）等

なお、丹波篠山映像祭は、丹波篠山市教育委員会、丹波篠山市及び丹波篠山映像祭実行委員会の共催とし、「Enjoy 丹波篠山 ♪ショートムービーアワード」については映像祭実行委員会に業務委託を行う。

①令和 8 年度丹波篠山映像祭

- 開催日： 令和 9 年 2 月 7 日（日）13 時開会
- 会場： 四季の森生涯学習センター多目的ホール
- 内容： ・第 38 回丹波篠山映像大賞（ファイナリスト作品上映、講評、最終審査）
・「Enjoy 丹波篠山 ♪ショートムービーアワード」（優秀賞発表）
・映像大賞結果発表・授賞式

②Enjoy 丹波篠山 ♪ショートムービーアワード

丹波篠山の魅力が伝わる映像、丹波篠山で感じた素晴らしい瞬間や楽しい体験を撮影した1分以内の映像作品を募集し、実行委員審査を通過した作品及び、優秀賞受賞者を映像祭内で発表する。内容については実行委員会で検討する。